



Data

監督: ロッド・ルーリー

原作: ジェイク・タッパー『The
Outpost: An Untold Story of
American Valor』(リトル・
ブラウン・アンド・カンパニ
ー刊)

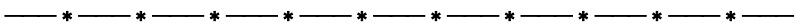
出演: スコット・イーストウッド/
ケイレブ・ランドリー・ジョ
ーンズ/オーランド・ブル
ム/マイロ・ギブソン/ジャ
ック・ケシー/ウィル・アッ
テンボロー

👁️👁️ みどころ

「アラモの砦」の戦いは有名だが、私は中国で大ヒットした『八佰 (The Eight Hundred)』(20年) で観た「四行倉庫の戦い」を知らなかったし、本作のテーマである「カムデシュの戦い」も知らなかった。「カムデシュの戦い」とは？ また、「アウトポスト」とは？

齋藤道三が築造した稲葉山城は何が優れていたの？ それと対比すれば、すぐに「前哨基地」のあるべき姿がわかるはず。しかし、運悪く(?) 劣悪な地形のアウトポストに配属されると、ひょっとして「アラモの砦」と同じような全滅の危険が・・・？

米国陸軍の強さはどこに？ 旧日本陸軍の在り方とも対比しながら、本作の中でその回答をしっかりと見つけ出したい。



■□■ものすごい戦争映画を鑑賞！カムデシュの戦いとは？■□■

私は2月5日にオンライン試写でものすごい映画を鑑賞した。もっとも、私は自分のデスク上にあるパソコンの画面で映画鑑賞するのは、どうしても集中できないので、基本的に邪道だと思っている。本作も前半は画面に集中できず、「ながら鑑賞」していたが、クライマックスの「カムデシュの戦い」になると、食い入るように集中することに。しかし、本作が劇場で公開されると、こんなものすごい戦争映画はやっぱり劇場の大スクリーンで！ そう考えて劇場へ。

『アウトポスト』と題された、ものすごい戦争映画である本作のテーマは、アフガニスタン戦争における「カムデシュの戦い」。去る3月13日に見た中国映画『八佰 (The Eight Hundred)』(20年) では、1937年の第2次上海事変のラストに起きた「四行倉庫の戦い」をはじめて知ったが、本作では、「カムデシュの戦い」をはじめて知ることになる。

「カムデシュの戦い」とは、2009年10月3日に、アフガニスタン北東部の山奥に設置された前哨基地で勃発したもので、約50人の米軍兵が約300名という圧倒的な勢力のタリバン兵による組織的な猛攻撃に立ち向かった戦いのことだ。私はジョン・ウェイン主演の『アラモ』(60年)や、それをリメイクした『アラモ (THE ALAMO)』(04年)『シネマ 6』112頁)で描かれた「アラモの戦い」はよく知っていたが、知らなかったなあ、「カムデシュの戦い」は・・・。

■□■アウトポストとは?■□■

本作鑑賞中、私は本作のタイトルとされている「アウトポスト」の意味が全くわからなかった。しかし、“その道のプロ”はたくさんいると見えて、本作に関するブログを読むと、これは「前哨基地」のことらしい。また、goo 辞書には、「1. <軍事> 前哨基地 [部隊]、2. (場所の) はずれ; 出先機関、支店」と書かれており、weblio には、「辺境の植民地、前哨、前哨部隊」と書かれている。

また、あるブログには、カムデシュには前哨基地キーティングとローレル(COPs Keating and Lowell)、観測所フリッチェ(Observation Post Fritsche)と書かれており、他のブログでもその点については色々と解説されている。なるほど、なるほど。

■□■なぜ米国はアフガン戦争を?アフガンからの撤退は?■□■

アフガニスタン戦争やイラク戦争をテーマにした映画は多いが、なぜアメリカはベトナム戦争で大きな痛手を負ったのに、これらの戦争をしたの?そこで強調されたのは、米国の“世界の盟主”として、また、“世界の憲兵”としての役割だが、「アメリカファースト」を唱えたトランプ前大統領は、早期のアフガニスタンからの撤退を公約とし、退陣直前までそのための手を打ってきたが、その結末は?

ちなみに、2009年10月当時の米国大統領は民主党のバラク・オバマだが、アフガニスタン戦争(2001年~2020年)とイラク戦争(2003年~2010年)を国民の圧倒的支持のもとに展開したのは、2001年1月から2009年1月まで2期8年間大統領を務めた、共和党のジョージ・W・ブッシュ。したがって、その時代のアフガニスタンの米軍のアウトポストは、すべて万全!私は勝手にそう思っていたが、米軍とアフガニスタン国軍を含めた約50人で守られているカムデシュのアウトポストは、そもそも防衛に弱い地形だったらしい。

他方、日本人はその実態を全く知らないが、耳にタコができるほど聞かされたタリバン(兵士)のアメリカへの反抗心は強い。本作前半は、そんな「カムデシュ」の「アウトポスト」で過酷な任務に従事する兵士たちの姿が次々と描かれていくが・・・。

■□■米兵たちの日常は?VS 日本陸軍のそれは?■□■

アメリカの戦争映画に見る陸軍兵士たちの日常は、厳しさの反面、電話、手紙、あるいはハッパ(?)等、一定の自由がある。しかし、アフガニスタンのアウトポストには女性兵士はいないから、若い兵士たちが常に女に飢えているのは当然。アウトポストの兵士た

ちの日常を描く本作前半で異様に(?)目立つのは、兵士たちのおしゃべりの多さだ。

これは、毎日のようにタリバン攻撃にさらされている恐怖の裏返しでもあるのだろうが、冗談めかしながらも各自の口から機関銃のように飛び出す言葉は、異様に多い。もちろん、そこには汚い言葉が含まれている、というよりは、汚い言葉のオンパレードだし、彼らが口にする冗談のほとんどは女(の下半身)に関するものだ。したがって、それを延々と見せられ聞かされている前半は少し退屈だったが…。

日本陸軍の組織としてのマネジメントの未熟さや、二等兵いじめの酷さは、『人間の條件』(59年～61年)全6部作や、『兵隊やくざ』(65年)シリーズ等で明らかだ。さらに、韓国の金綺泳(キム・ギヨン)監督が日本陸軍の理不尽さを描いた『玄界灘は知っている』(61年)には唾然とさせられた(『シネマ47』275頁)。それらと本作を比べると、上記のような米国陸軍の自由さが際立っている。もともと、いくら自由だといっても、軍隊では階級、命令、規律等が絶対だから、本作でもキーティング基地の責任者が、当初のキーティング大尉からイエスカス大尉、そして、イエスカス大尉からプロワード大尉と変わっていく中で、その実態がさまざまに変化していく姿が興味深い。本作では、所詮生身の人間、生身の男の集団だから、という当然のことを当然のこととしたうえで、あえて米国陸軍における米兵たちの日常をしっかりとウォッチしたい。その1つのポイントが、兵士同士の“友情”だが、さて、本作でのそれは・・・？

■□■なぜあんな盆地に基地を？VS 稲葉山城との違いは？■□■

「アウトポスト」の1つであるカムデシュの前哨基地としての脆弱さは事前に指摘されていたようだが、米軍はなぜ、あんな盆地に前哨基地を作ったの？ちなみに、一介の油売り商人から城持ち大名にまでのし上がった斎藤道三は、権謀術策でも抜きんできていたが、城づくりでも素晴らしい才能を発揮した。そのため、金華山に稲葉山城(のちの岐阜城)を築城したわけだ。松山市生まれの私は、子供の時から城山の上にある松山城に何度も(何十回も)上ったが、稲葉山城はそれ以上に高い(険しい)から、山上に昇るのは大変。お城や前哨基地はそうありがたいものだが、なぜ米軍はあんな盆地にキーティング基地を作ったの？ちなみに、1582年6月2日未明、明智光秀に急襲された本能寺は、いかに立派でも1つのお寺に過ぎないから、武装した大軍が四方から襲いかかってくればいかに織田信長でもどうしようもなかった。本作を観ていると、アウトポストの中に観測所などのさまざまな施設が設置されていることはわかるが、それを図面上で解説するシークエンスはないから、観客にはそれはわからない。

本作ラストのクライマックスでは、それらのさまざまな施設がタリバンの攻撃によってどのように分断されるのか、また、どのようにしてそれを阻止し、反撃していくのかを描かれるが、所詮、前哨基地を盆地(谷底)に設置したという致命的欠陥はどうしようもない。また、それとは別に本作を観てははっきりわかるのは、アフガニスタン国軍は全く当てにならないことだが、逆に強調されるのは、米軍兵士の闘争心と結束力の強さだ。本作を

観ていると、やっぱり米国陸軍は世界一の強兵。誰もがそう理解できることになるが……。

■□■やっぱり武器は豊富！ヘリは強い！応援到着まで何分？■□■

アウトポストは、アフガン国内にたくさん設置されたため、ひとつひとつのアウトポストを守る米兵は少ない。しかし、アウトポストを守る米軍兵士が持っている武器は優秀かつ豊富。さらに、もしアウトポストが危機に陥った場合、最新鋭の通信機器を駆使すれば、後方からすぐに、ベトナム戦争の時の大活躍でおなじみの、強力な攻撃ヘリが支援に来てくれるはず。したがって、「あと何分持ちこたえたら……」と前向きに考えられるのが強みだ。

アメリカの攻撃ヘリの威力は、ベトナム戦争の名作として今なお語り継がれている『地獄の黙示録』（79年）、『ディア・ハンター』（78年）、『ランボー』（82年）、『プラトーン』（86年）等で明らかだが、その威力はアフガンでも維持されているらしい。もちろん、タリバンだってバカではないから、彼らの総攻撃は準備万端を整えたうえでのもの。しかし、カムデシュの戦いの全貌は？その結末は？本作後半に見るその壮絶な展開は、固唾を飲みながらあなた自身の目でしっかりと！

2021（令和3）年3月22日記